

畧譜

相

岡

岡村

岡室

岡山

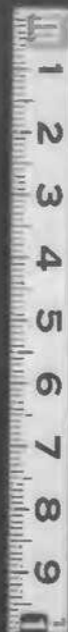
岡本

岡松

岡井

岡崎

岡野



二百十一冊内

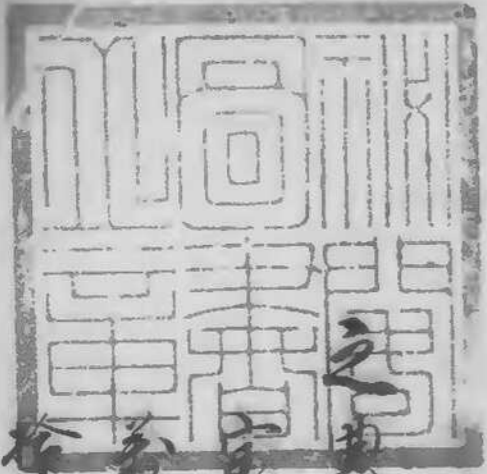
現共十五

庫	文	目	内
五六兩	三六〇八	和	書
九架	二三	冊	類
	九	冊	四



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (49)
函號	156 17

共六



源村

山

云云九八之給衣長

次男

家教九三

下

記録律用所

山形

二年

宣曆乙亥年十二月十日新親元
為本所及子百依格人技抄令
在乙卯同八月廿年十月新小姓及令



各勤之旨、時服禘於○日九知年十一月
 廿九、水濱切○日千辰年二月廿姓改五○
 昭和二年八月二日清水半人改日名○日
 二年三月十日病免○安永三年十月
 廿二日少人改○日六年七月二日目有介
 ○日九子年七月廿六日目有○天照四年
 正月十日方契向兼勤○日八年九月二
 勤梅石相慈之故有之、少當後入目通之
 日年十月二日免批之免○實為七年

七月八日清水殿逝去身、
 正史○日八辰年四月十日申州、
 釋於○日九辰年七月廿七日

其後保為醫所、後并其他調子男

之寬

忠山慶四郎 久四郎

言百儀拾人技抄

寬政元年同六月春子○日九辰年七月
 廿六日

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

源姓

國山

先祖不詳

家後丸内三指松
三巴
言百集者持

某

國山右郎助

權現様上御奉云地別山田百石

利好

國山右左衛門

寶永三年

志山市郎左衛門

甚助 守堅

利直

寶永八子年同正月廿五日亥時同日七日

不能勘定。西德又未年十月廿五日勘定

。享保十二甲年四月日克 由社系由依弟

。同十四年十二月廿五日克。同十四年

二月八日及知也免。延享三年七月十九日

隱居。寛延元年九月廿九日死七拾三

歳日寺

志山市郎左衛門 伊助

意利

志山市郎左衛門 伊助

延享二年七月十九日亥時。同年同十

二月十五半人。同和八年十二月廿五日

半人組。安永八甲年四月日克 由社系

由供。安永八甲年四月日克。寛政三年二月二日

死六十三歳日寺

某

利直三男

海辺政右衛門

海辺政右衛門方々子とて改右衛門
飛鳥助依西診長中病死家絶

利政

豊山市右衛門

安永二年十二月廿二日初見。寛政三年

六月方々子。同日子年十月十九日没后

久利

豊山甚助

言百俵方々子

寛政四年十二月十九日没后。同日八夜年

十月廿二日初見。同日十年八月十日没后

世活方々子。同日十年六月方々子病死。口年

七月口方々子病死。助方々子

重教 初重正

國生事記

御覽 賴宣御任子名萬治元年十月十四日犯難事息事葬

重俊

國山ゆかり

御覽 眞殿家身

家後九三三鱗

源姓

旧此穂核

下少孫 松皮美

國山

田氏珍本 子三百係

冷木三郎重家より公冷木平之助重信の遺流

國山重信の助重於二男

重之

國山ゆかり

此伊豆に在りて其保正元年八月二日死に其子重

重之

之於

長山九六八

高橋元中平八日

長橋元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

之矣

高橋元中平八日

長山九六八

元中平八日

高橋元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

元中平八日

之澄

長山左五八

竹之節

小藤

享保七子年七月廿五日因是。○寛延二年

十月廿二日病死。○安永五年十月

八日病死。○天明七年二月廿七日死。○享保

四年

之典

長山左五八

齊曆五年十一月廿九日

前元所推進方表。○同八年十一月廿九日

十辰年十一月廿九日。○同九年十一月廿九日

安永六年十一月廿九日。○天明八年十一月

九月廿九日。○同九年十一月廿九日

天明十年十一月廿九日。○同十一年十一月

廿九日

之信

長山左五八

長山左五八

長山左五八

長山左五八

寶曆九年九月十三日

同日六月五年五月十日

○寶曆九年四月廿七日

為二百俵

[Faint bleed-through text from the reverse side]

平政

忠宣

家後九片合

高七拾俵三之持

後流之次...

依之...

品...

忠宣...

元政

元政氏...

改策

昌宗改葬也

大藏院柳田守司以公祖以。慶安元年
十二月廿日死。市官長長終存葬

改植

昌宗海公之坊

家督
寛文元年七年神代出後田園書及由切本三
指書後之坊也。延宝八年十二月

種田院柳田守司。元禄六年十一月

二、元禄六年以書及由切坊一倍格成之九

張書也。宝永三年

桂昌院柳田守司。口口口口口口口口口口

七十、元禄六年以書及由切坊一倍格成之九

改運

昌宗海公之坊

一云

宝永三年十二月廿日死。市官長長終存葬

廿九日嘉治の書。○山越三二年四月廿二日
大興火の書。○山越三二年四月廿九日
月光の書。○山越三二年五月廿七日
月廿九日。○山越三二年五月廿七日
廿六日。○山越三二年五月廿七日
二十日。○山越三二年五月廿七日

源能

実録入。○山越三二年五月廿七日

嘉治元年十一月廿九日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日
山越三二年五月廿七日。○山越三二年五月廿七日

田原宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政

年三月。秋久。深余。病。之。公。楊。文。也。書。在
田原。昭。令。于。西。若。代。三。月。彼。政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政

昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政

昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政
田切宗政也。昭令于西若代三月。彼政

元文三年三月庚。

首座院棟、初見。宝曆十一年十二月廿九日
在石山寺。傳。○門三十二年十二月廿九日
初九半人組、四書又百餘十人、校持。言及
元五年、因六月十八日、世代官。○門七月廿九日
在石山寺、誠法、小浦原、於石山村、除座、校
及、爾、以、後、三、不、出、海。○門○十二月初九日
校、傳。○門三、成、子、七、月、廿、九、日、校、及、
出、海、以、後、三、○門○十二月初九日、傳。○門
三、三、年、七、月、廿、九、日、校、及、出、海、以、後、三、

○門三子年正月廿九日、校、及、出、海、以、後、三、
○十二月初九日、死、七、十、氣、葬、地、行、也。

政
三
心
方

初見、
平山、
宗、
令、
治、
所、

如永七、成、年、七、月、廿、九、日、初、見、傳、人、中、十、人、
出、切、系、系、也、○言、及、及、也、子、年、以、月、廿、九、
一、日、力、漸、上、見、五、物、二、反、○門、七、月、廿、九、日、
死、四、十、日、氣、葬、地、行、也。

心徳

忠義の節

高七十條之ノ段

寛政元年十一月十日始録

元正元年四月二日

文化元年三月廿二日

文政元年十一月廿二日

同日

平氏

忠村

家後拜首

勝扇

北内結合

高三白儀

和國志麻

和國志麻

赤井

赤井

赤井

赤井

赤井

並目

武村海軍少将 海軍部

退休

高橋正太郎の正月廿二日初見。日十八年
 十二月廿七日高橋正太郎。日十九年
 二月十三日高橋正太郎。日二十日高橋正太郎。
 延喜二五年九月廿日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 元年二月十三日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 日廿五日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 年十一月廿九日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。

八月廿九日死。六十歳。葬地。日廿五日。

並目

高橋正太郎 高橋正太郎 高橋正太郎

高橋正太郎の正月廿二日初見。日十八年
 十二月廿七日高橋正太郎。日十九年
 二月十三日高橋正太郎。日二十日高橋正太郎。
 延喜二五年九月廿日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 元年二月十三日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 日廿五日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。
 年十一月廿九日高橋正太郎。日廿五日高橋正太郎。

同元年十月七日...
 同元年十月六日...
 同元年十月五日...
 同元年十月四日...
 同元年十月三日...
 同元年十月二日...
 同元年十月一日...
 同元年九月三十日...
 同元年九月二十九日...
 同元年九月二十八日...
 同元年九月二十七日...
 同元年九月二十六日...
 同元年九月二十五日...
 同元年九月二十四日...
 同元年九月二十三日...
 同元年九月二十二日...
 同元年九月二十一日...
 同元年九月二十日...
 同元年九月十九日...
 同元年九月十八日...
 同元年九月十七日...
 同元年九月十六日...
 同元年九月十五日...
 同元年九月十四日...
 同元年九月十三日...
 同元年九月十二日...
 同元年九月十一日...
 同元年九月十日...
 同元年九月九日...
 同元年九月八日...
 同元年九月七日...
 同元年九月六日...
 同元年九月五日...
 同元年九月四日...
 同元年九月三日...
 同元年九月二日...
 同元年九月一日...

同元年十月七日...
 同元年十月六日...
 同元年十月五日...
 同元年十月四日...
 同元年十月三日...
 同元年十月二日...
 同元年十月一日...
 同元年九月三十日...
 同元年九月二十九日...
 同元年九月二十八日...
 同元年九月二十七日...
 同元年九月二十六日...
 同元年九月二十五日...
 同元年九月二十四日...
 同元年九月二十三日...
 同元年九月二十二日...
 同元年九月二十一日...
 同元年九月二十日...
 同元年九月十九日...
 同元年九月十八日...
 同元年九月十七日...
 同元年九月十六日...
 同元年九月十五日...
 同元年九月十四日...
 同元年九月十三日...
 同元年九月十二日...
 同元年九月十一日...
 同元年九月十日...
 同元年九月九日...
 同元年九月八日...
 同元年九月七日...
 同元年九月六日...
 同元年九月五日...
 同元年九月四日...
 同元年九月三日...
 同元年九月二日...
 同元年九月一日...

五順

長村虎之進
 二百後

元改七卯年分月一月初九日...

七月十七日...

同元年九月...

同元年九月...

同元年九月...

同元年九月...

同元年九月...

同元年九月...

同元年九月...

指物忽同年三月十九日... 同三年三月廿二日
... 同三月廿七日
... 同三月廿九日
... 同四月八日
... 同四月廿二日
... 同五月六日
... 同五月廿日
... 同六月十三日
... 同六月廿七日
... 同七月十一日
... 同七月廿五日
... 同八月八日
... 同八月廿二日
... 同九月十六日
... 同九月三十日
... 同十月十四日
... 同十月廿八日
... 同十一月十一日
... 同十一月廿五日
... 同十二月九日
... 同十二月廿三日
... 同十二月廿七日
... 同十二月卅一日

年元

是村

家教不待去者打邊
九内信人金
信原金
信成百俵

和苗和苗... 紀伊大納之... 和名... 是村... 二男

並附

長村海平 紋之助

有德院柳河代紀伊殿赤中長村重切次男

武藏守信之月原出福平系柳重之

出相子江云

河入城之廣人兄弟坊子之長海平信江

素入系別所村在系山系出河之山

等下下重出出用号右勅出中之後重原

十七年七月十一日因在少次所柳重切次

子之山新規出切并身右後介部右儀

出收科且園台流系柳重切後重之

初下御籠仕出河重之七右出用身右

之御仕裁之好飲和江也重切之在出

早所。享保十九元年八月十有死出十五

難司之在法助方之

並秀

長村海平 紋之助 外記

享保十九年十一月七日
口二十九年十二月十一日
元正九年十二月十一日
廿二日
廿二日

重載

長村海平 後之由 深三席

安永九年八月廿六日
○十二月廿二日
○十二月廿二日
○十二月廿二日

美山縣
長村為前

重溫

寛政十一年十一月十日
元正九年十二月十一日
○十二月十一日
○十二月十一日

東

呂村海一席

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



藤系姓

長下

家後世龍膽
言或人持巧

紀伊國海上紀下濱村之長下
物左邊の漢所住馬与左國の時同
然此取代但与与持巧之
安藝國小橋

某

長下物在東

皇後

長中皇太后

豐久

長中皇太后

十又兼子時紀藩少々元祿十六未年
西側坊主之長公之元之長江原少々
貞勤之室永二酉年所市京所也
後ハ一後とおふかハ一〇享保

之成年一御時元長所也
十旨矣坊之御元原米以後後或人
杖坊の口は之成年一十月輕解金書
所名彼小ととく翠新と書法
之長海一長新歌堂一海之之
皇成之ハ一謝書と神と
男 名後之とととく之之成家型
之ハ一〇日千酉年一〇日千九年一〇日千
祿百後とととく一〇日千九年一〇日千

軍記の清書をあるをあるに四年
 十二月功成しをりしに在りて授
 御法ふつ元文元年一勅書に後
 末の歌仙に勅をあるに在りて授
 後しに在りしに在りて授
 正日開格とありしに在りて授
 宿願とありしに在りて授
 西元正徳〇日正徳二年二月御休心
 するに在りしに在りて授

控書に在りしに在りて授
 人本聘のりしに在りて授
 きに在りしに在りて授
 らしに在りしに在りて授
 韓人と在りしに在りて授
 ありしに在りしに在りて授
 ありしに在りしに在りて授
 ありしに在りしに在りて授
 ありしに在りしに在りて授
 ありしに在りしに在りて授

披き紙に銀其取を産物とす。○そのら
う記よ

有徳院殿より○はるかに○あつを○経

存る紙産物とす。○

後明院殿より○あつを○はむ○あつ

左御へよとる。○元暦元未年七月

より○清和院勅○日○平○六月○

有徳院殿の○取と○あつを○

令と取と物とす。○日○七月

大御を殿に○はるかに○あつを○

せしむ様との○思ふと○あつを○

○日○平○六月○

後明院殿より○あつを○

の○あつを○あつを○

○あつを○あつを○

去秋

後明院殿より○あつを○

存る○あつを○

福永一く右馬と撰字一或公家よ
すうく國出き一物本あすく家に
あさめしめし

後河原殿

あさめしめし
あさめしめし
あさめしめし

あさめしめし
あさめしめし
あさめしめし

あさめしめし
あさめしめし
あさめしめし

○明和元年九月廿七日九時

赤坂成徳の墓

○孝久天皇の御子長根君

久徹

明和元年七月廿七日

明和元年七月廿七日

明和元年七月廿七日

明和元年七月廿七日

西醫傳
美松海結的玉男

長不台興

豊定

細年うう言収た志こひのく様
き味しにうそえ人のけしとらけ
長あし梅一え又は事年二月新
小ふん梅とめひそえの梅揮とほ
ふゆ口ああるひをもし表梅の梅
め流をううのうん梅云ま年梅け
ゆゆふし表梅とてううの原梅後

白筆書

夕傳武人日と物人のを久子かえり
しそめいの女よあくそく子せん
とをさひえんはそのひをゆるふ
○正孝に卯年二月十九日死二十歳
同書、美

美橋井林泰の天巻二男

是本文物

豊威

長興死後孫子の寛曆九年十二月
月あ飛表は右孫子の同十辰年十月

其日死之儀云云

其日死之儀云云

長次郎

久岐

初

寶曆十一年九月... 八月十日... 安永六年... 御社系...

久岐の御府の天...

久岐の御府の天...

後の法殿御...

久岐の御府の天...

久岐の御府の天...

久岐の御府の天...

久岐

長次郎

久岐の御府の天...

元禄九年七月二十日

[Faint, illegible handwritten text]

源姓

是也

正出洋本

家牧虎三也

金部

言百俵五人禁

是也源多

好考

元禄九年九月十日
是也源多
言百俵五人禁
家牧虎三也
正出洋本
源姓
是也

八月程本相有以如様之院儀。同日
九百九十九年九月死。卒。公。集。本。下。首。行
所。知。之。事。矣。

高木深之丞

信業

寛文九百九十年十一月家譜。〇。三。寶
二。萬。年。十。二。月。表。大。番。〇。日。七。未。年
四月。更。大。番。〇。之。孫。二。万。年。二。月。
日。孫。〇。之。孫。〇。之。孫。〇。之。孫。

栄高

高木権左衛門

元禄二万二年四月家譜。〇。日。三。寶
二月。西。大。番。〇。日。十。一。萬。年。十。月
麻。呂。一。庄。家。譜。〇。日。十。二。万。年。八。月。死
卒。一。萬。日。有。之。矣。

明玉

高木春千代

元禄十六年九月... 二年二月十九日...

是古... 史部

好

白... 保... 总... 二月... 下...

幸忠

是古... 史部

元禄... 享元... 日... 七... 以...

古殿口年十月十八日此勘定。日三
午年清水領知刻。因。翌年
六月。翌年七月。如。翌年二月
安永六年。此。翌年。此。翌年。
全。翌年。此。翌年。此。翌年。
安永六年。八月。此。翌年。此。翌年。
此。日。八月。此。翌年。此。翌年。
長。向。此。翌年。此。翌年。此。翌年。
此。年。十月。

將姫君様此入集。此。用。此。翌年。此。翌年。
此。翌年。十二月。此。翌年。此。翌年。此。翌年。
此。翌年。

是。不。勇。去。郎。此。翌年。

此。翌年。

安永十年。此。翌年。此。翌年。此。翌年。
此。翌年。此。翌年。此。翌年。此。翌年。
此。翌年。此。翌年。此。翌年。此。翌年。

日守の教養の日は寛永十年十月
 廿六日少正の庭より御
 上後時辰二〇日八辰年十一月二
 日勅下之日十年二月六傳奏公家元美
 中納言中納言百保之百保之抄

宗室家系(大納言)の御歴代(大納言)の御歴代

源姓
 忌本

家紋花輪造
 字百保

佐々木の支流よりわけて出交時
 初是南辰しつら〜氏とと〜後
 収管清高より玉尾申と称し世に
 家より仕入坂落珠の坂山珠玉は流
 歌山科よりつら〜その名成氏と
 子子清高より末末極末後と名
 の授賜を信よりの子加と名末より

予の是而後すかき清系男

是亦在籍

清光

寛文三年十月廿五屋傳与教具家臣成

清光

是亦在籍

在籍

清光

和年如賀与忠周家臣

是亦在籍

在籍

波苗

安永六年十二月廿二日浪人

自方一〇日七廿年四月

六日交配起定〇日九子年十二月廿

一安永月一廿用日十八日廿〇天

以元五年三月廿〇日二日

三月九日柳系式被与病作

清山原作此安永川

竹君の村久公の... 年... 月... 日...
 美... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 後... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...

心成

志本忠政郎

〇... 月... 日... 年...
 〇... 月... 日... 年...
 〇... 月... 日... 年...

寛政... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...
 正... 年... 月... 日...

徳温

言百俵

志本良花

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

藤永姓
是也

家紋三つ巴
蝶六丁子
子或百俵

下種國字姓家のま流も中法
流も富るれ後流内匠匠西を
之子後流も正親のまら子

実陸若りるる我道男
是也

久吉翁

義保

天正十八年卯祖文書子日三十二

り十三日家督の信長が得た
其の長二年大坂より

東照公に有徳の日記

を後院殿にお徳の日記を
送らぬ

東照公の御書

東照公の御書
所いお徳の御書と
け物あり

皆川山城と同一大田東の城の

成と云ふ事なりし
御書に記す。

成と云ふ事なりし
御書に記す。

一

信作義孝の御書に
記す

時忠實の御書に
記す

門を改易は時半
御書に記す

そのうち長つ
御書に記す

時忠實の御書に
記す

か様あり
御書に記す

あるを改易は
御書に記す

あるその御書に
記す

ある信作の御書に
記す

以て使節と稱すは……落人のそ
二年修級………後伏見の
城とちりうう水上原中ら改易の時
その形跡………れり
織部正盛………
主君の城………小甲府城
向り………十八年十
二月廿………
後………

義政

昌本日記抄

寛永六年正月十日

左衛門尉

大猷院殿小御所

一〇家………大田原出………

小指………

九月………

………

江戸小舟一之保九年五月六日
赤坂山形新屋に於て

保忠

出立新助 隆政助

兄中五内並此の内少く内分大坂新
屋男右衛門と付ひる日と申すは
佐藤子と申す一頁新屋と白紙と
宗新子と申すの後佐藤と申す

左衛門殿よお福一〇之元永世年

二月廿七日死す年五歳日吉に於て

野村養等

是本勘定書

忠信

大坂の赤坂小文保忠と申すは佐藤。

之後申す父と申すは

赤坂

左衛門殿よお福一〇之元永世年

の時神あり其おのるは後法一〇元
福元年四月廿七日に於て死す
三義は孝を重んずる事

素行甚るる

忠孝

孝行 孝行 用をこころしく 孝行 忠孝

改く素行を自稱す。元應三年

法相院教書抄に於ては素行は忠孝の事

る事と云ふの意は又同平なりと云ふ
死す代り也

素行の事

忠孝

元應三年十一月廿七日に於て
如父如子の事十五平六月廿九日
死す事

長本勘定書

長本勘定書

保江

之保十五年一掃田出取少くも
○同十六年七月九日正日正
原米八拾俵。○正永元年十二月十
五而九表突の者。○同二年六月十
九日正日正表突の者。○同
七年十一月十九日加候三拾俵。○正
徳元年十一月十一日正日正表突の者。○同

元永元年十一月十一日正日正表突の者。○同
九年死六十二元表突の者。○同

保忠

長本勘定書

元永元年十一月十一日正日正表突の者。○同
享保古一年四月二日正日正表突の者。○同
元年四月十九日正日正表突の者。○同
曆十年四月廿九日正日正表突の者。○同
同平一月三日正日正表突の者。○同

白の書
元平一
義直
義家

是市勘奉行 源朝

保備

高なる候

昭和二年一月廿七日
年十二月廿五日

透取後殿

孝高院殿小梅備
義直
昭和二年十二月廿九日

孝高院殿小梅備
義直
昭和二年十二月廿九日

実方母信六定雅三男

是本之系之系

保正

定直
昭和二年十二月廿七日
九年六月十日

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

藤原姓

是奉

是奉信使与高与六代素崎新

高与由一乃久之三男

是奉延十郎

久包

西暦元年十一月十八日表送高

与高十信。日云去年一月月海真

[Small handwritten mark or signature]

延享二年加授中納言。享保十二年
四月廿五日而先朝。同日十九日
四月十八日而先朝。同日十二
日午御布衣。同日之休。同年七月九
日拂衣出御。同日之休。同年八月
日死。同日之休。同日之休。同日之休。

久暢

延享二年

享保古卯年十一月十日初之。
延享二年十一月二十日。同日之休。
同日之休。同日之休。同日之休。
同日之休。同日之休。同日之休。
同日之休。同日之休。同日之休。

久忠

宝曆三年四月廿五日。同日之休。

實人
實思
延享二年

改七卯年四月廿日

夏刊井寺...
長中...
久可

寛政五...
七卯年...
月廿...
二...
...

正勝...
東...
...

東...
...

正方...
...

...

...

友...
...

...

家...
...

...

...

...

...

...

...

...

○ 家康 臨終 社ニ所著ヲ録スルハ載セテ是日ニ在リ
○ 家康 臨終 社ニ所著ヲ録スルハ載セテ是日ニ在リ

裏面白紙

改七卯年四月廿日任

皇和井帝... 長古山探志

久可

寛政五年七月... 七卯年四月... 月廿日任

三三式百俵

正勝... 徳吉

東... 正勝... 徳吉

正勝... 徳吉

寛政五年... 正勝... 徳吉

寛政五年... 正勝... 徳吉

正勝... 徳吉

寛政五年... 正勝... 徳吉

正勝... 徳吉

寛政五年... 正勝... 徳吉

徳吉

心恒 永年十一月廿六日家終。同日。每日
之死。幼定。享保八年。十月廿六日。元中
庚寅。活。同日。九月。年十月十九日。少。曾。通。○
同。年。月。日。終。○
○。享。保。元。元。年。七。月。廿。六。日。少。曾。通。組。既。○。竟。也。
三。年。年。六。月。廿。四。日。死。六。十。六。歲。系。坂。行。德。与。森。

心恒

心恒新法師

竟也三年九月二日家終。同日。永年十月

八日死。年。上。家。回。寺。

心輔

心輔長壽寺

心輔。永年。九月。廿。六。日。死。六。十。六。歲。系。坂。行。德。与。森。

竟也。口。永。年。六。月。九。日。家。終。○。同。日。廿。六。日。
七。月。廿。六。日。少。曾。通。組。○。永。年。六。月。廿。六。日。死。
○。同。日。廿。六。日。永。年。十。月。廿。六。日。死。○。同。日。廿。六。日。
具。是。場。失。回。上。月。廿。六。日。死。○。同。日。廿。六。日。
十。二。日。死。

五百八十八

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

東照宮御代

圖本

三子石

橘姓

家紋 橘

諸君之御代

宗純男左門 哲

諸君之御代

諸君

院の門より書字の十六歳より延喜

人々を授けしは九年常流の禮道に
字つ漢字兼行流諸通者ともいひ、
西通者の号と漢りきこと存留あり
の者候志授興しとる慶長年中
俵人の事

東照公の御湯の元和四年四月の法眼
勅許の事二年の同九年

大猷院勅許の上洛 送市の時より依て
信を以て實の事二年日元也社系位事

強身には清咽痛の事也其日就
上り候法の同九年

名徳尼殿の命よりして法眼は同九年
院歸 勅許諸地院の同九年

中務のく定地を修事する事京都より
楊を以て以て事し候りし事同九年

十二月年名口統居藤白事候し同十
年

大猷院勅許の例の事也候し一清姓は清威

の録白紙を紙の同十二年胡舒四に
使之人白麻を漢より丘と京都めく
珍脈病論を著す方未平は後には使の書
と需のうく書と稱するは其の文書を
り李斯可代板書用治者重家感院
の余文十書は章書法大集く二巻
その副書はあましくは府の宅了
猶越えし男を琳書に授らばの同
十四年

大猷院殿清石の母山樂献とて書
し故をある系村或は恩園村とて樂地
子石とて清業非敬女の母系の方お
唐履膨清系入とて書は入美令人冬
御付綿帛と稱ふまほるは物ぬ方。
二九のく清系を紙の清書のの病を紙
とて系は時の宿庭のく物。

横書

山河 國其清脈を珍中とて書とて紙

時服白袍者

林正和より著書に依附令合七皇朝類苑
一節を録○正保二年四月廿二日死
後九歳没首無事守仁壽

諸通院主琳法服 改任背軒

女球

寛永二十八年 月 日 初見○正保二年

お終る月廿七年 月 日 法服○月廿七年
夏津津書之百債之孫人技持○正保二年
月 日 家督○万治二年十月廿一日上京
山崎町後六郎字教有○寛文二年
月 日 上京○延宝二年八月廿一日改任又
招人技持功戴○同二年招別有○温泉
浴湯に赴けしお徳世に再之影に
て湯治し 貞享二年九月廿二日京
越山に死六十八歳世孫大徳守伴

玉梅院の葬

玉梅院の葬に法服

祐品

實徳宗二男

大猷院教初見○正保二年月の二日儀ニ
格人持持の万治元年の月の六日の葬
○延享二年月の廿五日の葬
○寛文元年の月の廿五日の葬

法服の之儀六年の月の六日の葬
四年の月の九日の葬
七年の月の八日の葬

玉梅院の葬に法服を着せる事

葬品

天保二年七月十日の葬
月の初日の葬
月の初日の葬

徳目出礼の同年十月廿一日由番医師
 ○同十二年九月廿一日令旨^{後藤}由番の旨○同十三
 年十月十九日由番の旨○同十四年二月廿九
 日之旨^{後藤}由番の旨令旨の旨^{後藤}八年二月廿一日
 居宅^{後藤}由番令旨由番の旨○同十二年
 四月廿一日由番社系^{後藤}由番○同二十二年十二
 月廿一日由番○同二十二年醫書万安方
 書寫^{後藤}由番の旨十二月廿一日由番
 十二月廿一日由番^{後藤}由番の旨十二月廿一日由番

此法^{後藤}由番の旨○同二十二年十二月廿一日
 政仕令旨^{後藤}由番の旨○寛延二年十二月
 十日死半^{後藤}由番の旨

略題院^{後藤}由番 初番^{後藤}由番

篤敬

享保十六年十二月廿一日由番の旨○同二十二年
 十二月廿一日由番^{後藤}由番の旨○同二十二年十
 二月廿一日由番^{後藤}由番の旨

松心

諸通院言治法眼 治法書新

初九日

實曾谷伯武松之次男

室曆二年十一月廿九日
廿一月廿六日
廿一月十九日
廿一月十九日

八日法眼○明和二年十一月廿九日
今清用○同公年二月廿九日
清井休碩事○同日
之自清用○同公年四月廿九日
休事○同公年六月廿九日

分壽

諸通院言治法眼 治法書新

三十一日

元禄七年丁未七月廿七日初夜八
年九月廿九日家督等命の天國又
年十二月廿日法服

元禄七年丁未七月廿七日初夜八
年九月廿九日家督等命の天國又
年十二月廿日法服

源姓

子及 魁等 桐

長

子 山崎

然若國作人長公等又忠清為男

忠房

長金等情

元禄六年丁未七月廿七日初夜八
年九月廿九日家督等命の天國又
年十二月廿日法服

七月七日死日白養園寺葬

忠春

長行右衛門

元禄八年庚申七月廿六日初死。宝永六年
八月六日^喜喜保二年^喜死守七家下
谷宗也寺葬

忠倚

長金十郎

喜保二年壬申十月二日家落。元文三年
十月七日死守七家同寺

忠壽

長伊藤

長之助

元文三年壬申二月家落。宝曆十辰年正
月廿三日死守七家。同日十一辰年八月廿九

勅の四十二年十二月十六日御免小少組の西和六
 五年正月三日御免。本水五申年四月日之
 化の天明七年十二月廿八日去取御免奉給の日
 八申年二月廿六日御免全一取御免二〇寛政二年〇
 子有御免之日御免多死于平九年御免

忠美

忠美御前 忠美御前

寛政二年二月廿六日御免全一取御免二〇寛政二年〇
 子有御免之日御免多死于平九年御免

源氏

家長五七相
 高三百五徳

又和石伴

園

正久

長子御

定宝七年年十月廿五日御免御免。本水五
 申年四月日之。化の天明七年十二月廿八日去取御免奉給の日
 八申年二月廿六日御免全一取御免二〇寛政二年〇
 子有御免之日御免多死于平九年御免

貞享二年正月十日死於高林寺

在任所

伊予中名 伊予子

轉任高林 伊予府

正房

尾張卷

春節

貞享二年正月十日死於高林寺

三月廿五日死於同寺

抽籠

實久留

長子節

子也

元禄八年七月廿五日死於高林寺

三月廿五日死於同寺

高林寺

散

園子卷

高林寺

○同十五年寅月之變
○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年
二月廿七日死○二十四年回寺

道生

志不他

百一經

○同十八年六月二十日在洛陽○同十八年
二月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽
○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽
○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

景原

實休阿比野言卷多美子

國子館

久留部

子純

後度

○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

○同十八年三月廿七日在洛陽○同十八年三月廿七日在洛陽

貞治元年二月十日

五月廿四日

後醍醐天皇御病中

六月廿七日

七月廿七日

八月廿七日

九月廿七日

十月廿七日

十一月廿七日

十二月廿七日

源姓

是

因能活也存五活能三河等存与

男

存頃

是迄取法下

古徳院極く多石如

古徳院極く少附の多安否在途之有安死

存序

皇之御印

元和九年春李由例中村。中村組の由虎
 十の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 御成王の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 由書月かまの由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 十月の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 其の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎

孝常

國之御印

元禄十一年八月十日由虎組の由虎永十の由中村組の由虎
 九月九日由虎組の由虎永十の由中村組の由虎
 所由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 由虎永十の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 刻限正引の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 其の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎
 其の由中村組の由虎永十の由中村組の由虎

乃多言しと欲ふるは切實し礼甚ふと
即去しる愛也と心を立寄りては信より大
機御守る能く接合は内不計力と云ふ所
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所

完と追を其紙に依りて以律危
多信宛新ふるは信の大方御守
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所
存御守と接合しるは信の大方御守
存立致方とて内愛也と云ふ所

早河守、遊軍を率ひて、中州に屯す。切通す。中州に
於て、原田守、遊軍を率ひて、一切を拒む。中州に
下人、原田守、遊軍を率ひて、中州に屯す。切通す。
却る。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
接投。次、中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に

存中、孫守、遊軍を率ひて、中州に屯す。切通す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に
中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に屯す。中州に

しるしなる由申敷し其後いふ事あり
加多御平が處に御會し申す事あり
申す事あり其後いふ事あり
夫れ御平が處に御會し申す事あり
以後いふ事あり其後いふ事あり
又今に於て其の内進して其月水光
孫に御平が處に御會し申す事あり
防吉因山切吉依り同山系方と同紙及色
後防吉の御平が處に御會し申す事あり

事あり其後いふ事あり
今に於て其の内進して其月水光
孫に御平が處に御會し申す事あり
防吉因山切吉依り同山系方と同紙及色
後防吉の御平が處に御會し申す事あり
申す事あり其後いふ事あり
夫れ御平が處に御會し申す事あり
以後いふ事あり其後いふ事あり
又今に於て其の内進して其月水光
孫に御平が處に御會し申す事あり
防吉因山切吉依り同山系方と同紙及色
後防吉の御平が處に御會し申す事あり



予嘗於朱小川左番の許に在りて其意を連する
中に其酒の酔ひは十日の朝までありしに徳武田
中左衛門と申すものさしりしは所を以て柳子と
し言はれり余亦之を其危れを以て此名を知
りしに後其門者より申す紙の外は其師
の書も亦其及より其書も亦其紙の中に九月
十日の書も亦其師の書也其及神尾在りて
八郎之書定て其紙所を以て柳子要細取
りしに其利所を以て一件は其書也其利所



中の九月の書も亦其師の書也其利所を以て
以て細曲り其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て
其利所を以て其書も亦其師の書也其利所を以て

と云ふ事と申す事と申す事。呼ばれ居る事
致事式立居る事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。

一 國公事係交。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。
申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。申す事。

一九月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より
一〇月廿五日松平隆定より

予の十四日記 松平隆定

孝良

是は是後 仰存の 孝子
是は是後 仰存の 孝子

寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日
寛永六年三月廿一日

八月三日卯午初の同日三年三月十日
卯午初の同日三年三月十日卯午初
卯午初の同日三年三月十日卯午初
卯午初の同日三年三月十日卯午初

孝道

長久保 徳政

寛文三年三月十日卯午初の同日三年三月十日卯午初
卯午初の同日三年三月十日卯午初

卯午初の同日三年三月十日卯午初
卯午初の同日三年三月十日卯午初

高田石

孝健

長久保 徳政

寛政元年三月十日卯午初の同日三年三月十日卯午初
卯午初の同日三年三月十日卯午初

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

津村 亨女

家後丸 白向也
四目佐
言三平之取持

忌

[Small vertical characters]

履歷不知作 功高而几近 為其官也

方姓也 度

忌之在道 後林行

要道

正徳六年三月廿四日信者重吉合口

新起午人扶持。元文元年春二月廿四日

病死清里新居家安守之孫

長持年

心寫

享保四年十月九日家督。元文三年
同月百病死葬地以之

長持年

心寫

元文三年七月百病死。元文三年

享保四年二月十六日半人組。元文二
年八月百病死。安永九年十二
月百病死。元文二年八月

長持年 初態七

心寫

享保九年十二月十七日家督。元文
八年十二月七日百病死

皇元御紀卷之六十四

幼女次第

和名
寶曆二年十月十八日舞臺
寶曆八年正月廿四日大首
和名

和名

馬子名

皇元御紀卷之六十四
幼女次第



後原姓

家教了之也
五七相
高二百俵

皇元御紀卷之六十四
幼女次第
皇元御紀卷之六十四
幼女次第
皇元御紀卷之六十四
幼女次第

某

皇元御紀卷之九
幼女次第

皇元御紀卷之九
幼女次第

秀隆相從彼國之海海仕文祿二年父元
志死去後遂成相續仕老后之威加勤仕
少子細首之浮田來退去内羽仕浪人之
秀高之妻古傍孝花房志摩守の侍

權現極之 古出為人元祿六子不家不喜日
清在云仕暫有勤位長仕在云後將年内
妻徳之徳有存云云在付不年内依勤
弟侍知後年三云在年内母方徳文以衣
揚於金全堂云云在加大坂城中云云在加

少長父子誰別仕義徳之始末

權現極系表 清不審元祿元年七月三日
於妙顯寺切腹

系

長平内

妻徳之依有又就希了不具更軍浪仕
在云云母方叙文以不揚勤分今云云云
相加大坂城中云云在加元祿元年

六月唐城後於江戸切腹仕下

元春

長孫傳次

法禪
道和

浮田中納言秀家代別。祿子三百石。元宛
外通智小性多細子相親。勤仕。父家長
三成年。子細有之。浮田家退去。浪人。三
於。死。年。不。性。實。嗜。醫。學。以。有。法。禪。道。和
叔。父。醫。業。相。立。死。立。以。父。實。元。永。十。二。子。年

育方於京死

元勝

長九郎左衛門

智房

父元喜。長。浪人。仕於京。於法禪醫學業
相續。慶安二年二月廿六日死

元安

長五郎右衛門

五郎左衛門

道詮

醫業好石了以牙又智庵死後傳中國
於宇那早傳之引物浪人言死立以知事係
十二申年九月廿日死

元善三男

是甫庵

隱居靜隱

壽元

兄智庵元孫伴元女醫業好石了以牙
壽元依兄元勝善子二子成醫業相續
寬永十八年十一月廿五日死 長出山切系

二百俵沙洲也云云。兼應元元年十二月
十八日法眼。天和元元年十二月廿日隱居。
元祿七年七月十八日死八十七歲。淺草桃
林寺葬。

養育院標沙美市物美市画山也。國族

壽益

是甫庵

五郎右

道溪

延宝元年十二月廿六日初見。天和元自

年十二月廿六日家持^嘉○貞享元子年十月
 十六日涉例^事云○東宮^御人^御次^御余^御徳^御古^御
 経^御乃^御改^御名^御侍^御候
 上^御意^御之^御入^御道^御漢^御之^御改
 ○元禄四年九月廿八日追放○日又申年
 六月九日追放涉免○日十二辰年十二月
 月並^御之^御申^御礼^御 涉^御免^御之^御入^御室^御永^御六^御年^御四^御月
 初^御日^御 濁^御松^御振^御涉^御免^御之^御入^御月^御日^御年^御七^御月^御十^御日
 少^御切^御米^御二百^御俵^御等^御在^御涉^御例^御事^御云^御涉^御免^御之^御入^御日^御○在
 二辰年十二月十八日法眼○同又未年九月

十九日涉例^事云 涉免^御是^御令^御之^御享^御保^御口^御年
 八月廿八日

長福祿 小次郎振身同 冲接煙能^御久^御絶^御之^御在
 以^御身^御少^御番^御料^御或^御百^御俵^御○日又子年二月廿八日涉
 例^御事^御云○同六年十二月廿七日少^御番^御料^御或^御百^御
 俵^御少^御加^御増^御之^御下^御於^御名^御百^御俵^御○日^御秋^御三^御年^御四^御月
 廿八日陽^御辰^御少^御番^御料^御以^御百^御俵^御陰^御辰^御料^御○元^御三^御
 巳年四月廿一日死八十四歳^御後^御子^御桃^御林^御少^御疾

長益編集集書

痘疹要方

十二冊

本草附方撮要

十冊

右二部草稿之類今人傳來

壽愿

美濃人卷之左馬右安男

長南房

岐愿

六郎左

寶永乙子年長子○同六月廿年十月十日

初見○享保六年十二月廿日

竹娘表極少病用○同月○同初五年三月

廿八日疾瘳多合○同十二申年四月十日是

沙社系次代○同年十二月七日

天英院極少○同十八戌年十二月廿一日

法眼○同十七子年十月廿六日西丸小廣表

不用○同十八子年九月十日

瑞春院極少病用○同年九月十日西丸

沙葉中極少病用○同十九亥年正月十日

六日西丸表小醫師○元文四年六月十日

竹次代極少病用○同年七月十日

月光院極沙用。延享二年三月十日

萬次郎極沙用。永享元年

十月七日。幸ひ思ふに、泊り申免

○同日。同年十月九日

後院極沙筆。本表。同。拜。○同日。六年六

月。二百數年。出。精。老年。と。相。勤。申。沙。高

沙。免。勝。次。支。抄。申。按。極。何。と。申。出。と。申

此。及。信。穰。思。下。作。分。と。申。此。及。後。院

后。未。相。取。後。各。用。申。下。申。文。作。其。分

○同日。九年九月。言。死。半。二。案。日。寺

実浪人 國富 長忠男

長智房 多門

寿明

享保十三年九月。言。高。子。○同日。十一年

八月七日。初。見。○元。文。三。年。六。月。廿。二。日。死。二

十六。歳。日。寺

長道溪

乙卯春

年録
甫居

壽考

元文三年八月三日
寛延二年二月十日
初見○宝曆元年未

年十一月廿七日

月光院極少伺○日二年六月十日
初見○全平為拜候○日七年十二
月十日西丸山度表法用○日八年十月
月九日死二十五歳口寺

壽考

高
実意安法下宗愉之男

長甫居

孝悦

孝六郎

宝曆九年二月廿日
六日亥時○日十二年十二月十日
涉用日月晦○日合○日初六年十一月
九日西丸山度表法用○日十月十日
兼壽考極涉用○日年十二月十日
日未年十一月七日
日未年四月十八日

日未年四月十八日
日未年四月十八日

口取地若山何山用。日業十月廿九日。四年前五月廿九日。七月廿九日。九月廿九日。各書。

天正元年六月廿八日酉九劫。口六十年十月七日酉九劫。宣政六年二月十日。天正元年八月八日酉九劫。口八

天正元年十月廿九日

壽延

長道溪 為二郎

女永元申年九月廿九日。宣政元年六月廿九日。十月廿九日。十七日。口守

道周

天正元年七月九日

長壽店 為曹

言三百俵

天正七年七月九日。宣政二年。九月廿九日。初七日。口八辰年四月十九日。宣政六年八月六日。醫業出精一。口八

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

家後元三也
五七相
子三言景子持

忠壽元三二男

实松平大膳古吏醫師
右田隆房法橋素元男

忠宗椿 丈店

壽信

元禄四未年九月廿八日兄壽益被追放
身作舟右家督隠居靜隠壽元水不
並山也松老三成其三外美子三也
并妻也松平大膳古吏技師右田

法橋素元伴右田宗桂俊元祿己未年
十月晦日養子年九月廿二日養
子○丙申年十月廿八日初見同十一月十日
より月並く礼名出○同七年十二月十二日
養子○同十五年六月廿八日表出番医師
○寶永己子年九月十二日
松根君極也医師○同年十月十八日杖持
二人杖持は下言二首後二人杖持。享保
己亥年八月十六日死乙午葬淺草櫻林

寺葬

実意安法平宗怙男

宗怙

忠甫店

控者

宝永己子年七月二十日養子其後意安法
平忠願云部々宗怙病重高学業相續
難仕所付惣从除仕少外男子無所存
より双方熱話より享保己亥年六月十日
養子居

実朝原信房高直男

忠文彦

玄瑞

集

享保四亥年八月十二日養子。同年十月
二日安堵。同七亥年十二月四日小石川
養生所。同十一年十二月六日普医師
。元文元辰年六月廿七日
天英院御所。寛保元年四月十九日
病歿。同年六月二日表御醫所。同日

亥年六月十七日死同寺

壽

実加茂左郎公清元隆男

忠文彦

徳三助

壽満

元文二年八月廿六日^葬養子。寛保二年
年八月二日安堵。宝暦元年二月十九日
死同寺

壽倫

長道和

能心之助

宝曆元未年九月九日家傳。明和七年
閏六月朔日死。年六。葬日寺

壽庸

長道和

雲琢

常之忠

明和七年九月十日養子家傳

壽

實森養長院法下南定勇



源姓

長道和

長道和

家傳

長道和

高道和

規改

長道和

神田河原下長道和。寛文三年

四月廿二日死

某

長道和

寛文三年六月十日辰時馬寮の御
 乃古儀の元禄十四年十月十日辰時
 西徳口十年十月十日辰時
 沈之儀

某

名後全書

元禄十四年十一月十日辰時馬寮の御
 三年十二月廿三日辰時馬寮の御
 西徳口十年十月十日辰時

親壽

名後全書
 西徳口十年十月十日辰時

享保元年中八月十日辰時馬寮の御
 元禄十四年十一月十日辰時馬寮の御
 西徳口十年十月十日辰時馬寮の御
 寛文三年四月十日辰時馬寮の御
 西徳口十年十月十日辰時馬寮の御
 西徳口十年十月十日辰時馬寮の御

親境

三ノ境

長崎市

宝曆三年九月廿二日在洛○同大正年
九月廿日初七日在洛大正年九月廿日在
三宿坊回寺

親嗣

長崎法印

高石儀三入持

寶曆五年十一月六日在洛 文政元年正月
廿七日在洛 文政三年正月廿六日在洛 文政五年正月

長原氏

岡井

家後梅所

唐花

言多多儀

南江大信大寺醫師岡井三齋師之男

道業

岡井自序

南江大信大寺醫師岡井三齋師之男
二月廿日在洛 三月廿日在洛 四月廿日在洛
依○定室大正年四月廿日在洛 五月廿日在洛
身巾 性樂院并

東

寛文十一年
尾井玄下

正徳九年六月廿八日
正徳九年七月廿八日
正徳九年八月廿八日
正徳九年九月廿八日
正徳九年十月廿八日
正徳九年十一月廿八日
正徳九年十二月廿八日
正徳十年正月廿八日
正徳十年二月廿八日
正徳十年三月廿八日
正徳十年四月廿八日
正徳十年五月廿八日
正徳十年六月廿八日
正徳十年七月廿八日
正徳十年八月廿八日
正徳十年九月廿八日
正徳十年十月廿八日
正徳十年十一月廿八日
正徳十年十二月廿八日
正徳十一年正月廿八日
正徳十一年二月廿八日
正徳十一年三月廿八日
正徳十一年四月廿八日
正徳十一年五月廿八日
正徳十一年六月廿八日
正徳十一年七月廿八日
正徳十一年八月廿八日
正徳十一年九月廿八日
正徳十一年十月廿八日
正徳十一年十一月廿八日
正徳十一年十二月廿八日

達

寛文十一年
尾井玄下

正徳九年六月廿八日
正徳九年七月廿八日
正徳九年八月廿八日
正徳九年九月廿八日
正徳九年十月廿八日
正徳九年十一月廿八日
正徳九年十二月廿八日
正徳十年正月廿八日
正徳十年二月廿八日
正徳十年三月廿八日
正徳十年四月廿八日
正徳十年五月廿八日
正徳十年六月廿八日
正徳十年七月廿八日
正徳十年八月廿八日
正徳十年九月廿八日
正徳十年十月廿八日
正徳十年十一月廿八日
正徳十年十二月廿八日
正徳十一年正月廿八日
正徳十一年二月廿八日
正徳十一年三月廿八日
正徳十一年四月廿八日
正徳十一年五月廿八日
正徳十一年六月廿八日
正徳十一年七月廿八日
正徳十一年八月廿八日
正徳十一年九月廿八日
正徳十一年十月廿八日
正徳十一年十一月廿八日
正徳十一年十二月廿八日

道

寛文十一年
尾井玄下

寛延三年八月廿五日
の事
年三月廿七日
四月十日
五月廿一日
六月廿三日
七月廿五日
八月廿七日
九月廿九日
十月廿一日
十一月廿三日
十二月廿五日

平太右衛門
寛延三年四月廿五日
五月廿七日
六月廿九日
七月廿一日
八月廿三日
九月廿五日
十月廿七日
十一月廿九日
十二月廿一日

自叙方信友史亦為自病氣育以今夜中
發覺(天乃)六年午(卯)八日 陰曆
(卯)八日

道博

昇運南 氏師 主廟

天保六年正月十九日(卯)八日(卯)六年
年四月(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日
形(醫)業未熟(一)身病(二)且幼(三)分(四)
以(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日
同(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日
寶曆(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日(卯)八日

天保六年正月十九日

源姓 昌和

家姓(叙)稱(述)
子(昌)侯(武)壽(三)

久利 昌和(昌)和(昌)和(昌)和

久利 昌和(昌)和(昌)和(昌)和

承和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和
昌和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和

昌和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和
昌和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和(昌)和

昌和

去後より傳へられたりし諸君の元和
五年二月死

久澄

長松石室

元和五年八月死
元和五年八月死

久光

長松石室

元和五年八月死

元和五年九月死
元和五年十月死

久周

長松石室

元和五年十一月死
元和五年十二月死

久遠

長松石室

元和五年

元文三年八月... 年九月... 全... 漢... 皆... 漢... 乙... 官... 漢... 官... 漢... 官... 漢... 官...

壬午... 有... 年... 月... 鶴... 年... 年... 日... 聖... 以...

〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年...
 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年...
 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年... 〇日平在年...

年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年...
 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年...

久相

在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在...

三原... 三原... 三原... 三原... 三原... 三原... 三原... 三原... 三原... 三原...

寛政十一未年四月港分

御奉行より御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

文前 御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

御奉行御用出

平氏道平前入子終之方出用應永永
有取。同年有清兵勢以尾以东海
乃勤門之出警清兵出用其海以有存安令
或取。同年有清兵勢以尾以东海
同十年二月日之。出警清兵出用其海
今是取。同年有清兵勢以尾以东海
东海道之門。出警清兵出用其海
三月日之。出警清兵出用其海。

平氏

家三舞 笹龍膽

園野

中苗田中

拜願定改
旭酸草
三十五首名

桓武天皇二十代相換次而時行隆胤
北條右三衛尉某後之祖教代修立國
田方欲得野在田中。以之。以之。以之。以之。
以之。以之。以之。以之。以之。以之。以之。以之。

融成

足野融成。入道。以之。

以系家。以之。以之。以之。以之。以之。以之。以之。

口口七年

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

口口七年は吉原に
一橋公の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに
吉原の御成敗
と云ふ事ありしに

○年月日
檢校御上元文字之旨乃賜紙上

序次

加号
是即二年

此書は廣長九年八月廿日
宣旨より成りて廣長九年
に於て

檢校御上元文字之旨乃賜紙上
宣旨より成りて廣長九年

檢校御上元文字之旨乃賜紙上
宣旨より成りて廣長九年

宣旨より成りて廣長九年

是即二年

英明

廣長九年八月廿日

檢校御上元文字之旨乃賜紙上

宣旨より成りて廣長九年

宣旨より成りて廣長九年

宣旨より成りて廣長九年

宣旨より成りて廣長九年

宣旨より成りて廣長九年

以下並に社火下下りて例科社火云々
○寛永八年二月十日
○寛永九年二月十日
○寛永十年二月十日
○寛永十一年二月十日
○寛永十二年二月十日
○寛永十三年二月十日
○寛永十四年二月十日
○寛永十五年二月十日
○寛永十六年二月十日
○寛永十七年二月十日
○寛永十八年二月十日
○寛永十九年二月十日
○寛永二十年二月十日

日蓮上人依被褥のりぬぬぬぬぬ
と云ふ事知の事云々
○寛永元年
○寛永二年
○寛永三年
○寛永四年
○寛永五年
○寛永六年
○寛永七年
○寛永八年
○寛永九年
○寛永十年
○寛永十一年
○寛永十二年
○寛永十三年
○寛永十四年
○寛永十五年
○寛永十六年
○寛永十七年
○寛永十八年
○寛永十九年
○寛永二十年

法苑珠林卷之七 移心月 檀田山門 抄寫 卷七
 之 經 藏 之 文 代 什 子 法 之 卷 年 十 月
 九 之 夜 年 儀 法 之 公 國 井 莊 樂 以 尾 口 也 也
 以 知 法 在 作 會 誠 之 留 留 上 所 今 此 儀 容 之
 是 之 公 在 法 誠 之 公 誠 之 也 之 誠 之 未 知 也
 郭 亦 身 之 神 之 以 月 今 井 口 也 之 公 也 之 公 也
 明 宜 欲 數 難 時 時 者 者 者 也 正 實 上 所 今 不
 校 異 志 也 之 月 之 法 上 之 也 之 實 文 之 百 年 也
 月 日 是 之 河 江 系 之 公 也 之 公 也 之 公 也
 也 法 法 之 公 也 之 公 也 之 公 也 之 公 也 之 公 也

藤原公成 弘治元年八月廿五日 卒 終年七十九 葬 於 東 山 寺 之 法 堂 後 改 葬 於 東 山 寺 之 法 堂

孝明

皇極年九月 皇極年九月

寬永九年 九月 廿五日 卒 終年七十九 葬 於 東 山 寺 之 法 堂 後 改 葬 於 東 山 寺 之 法 堂
 十二月 廿五日 卒 終年七十九 葬 於 東 山 寺 之 法 堂 後 改 葬 於 東 山 寺 之 法 堂
 四月 廿五日 卒 終年七十九 葬 於 東 山 寺 之 法 堂 後 改 葬 於 東 山 寺 之 法 堂
 死 之 年 一 月 廿五日

貞明

長安孫九師

房明 年矣
實系奉有等
和堂海山等

寛永九年八月八日自母身月大寅
年二月五日自書法者切年之百俵
の湯丸飲の進物書の寛文二年
十月九日於百人徳樂書酒丹雅系以阿部
豊後守福葉美濃守之世夫和守之屋但
る有別注の以復之入程凡為大痛
此得元純之書目是也法江流書其後
不便之書也且程凡為和守之也之

子に百俵或石月多石下百俵或石
才由申孫中而左の如少知法行有公之
中江江有は後紙有之書也之江渡人
の以六年六月八日自書の以年十二月八
日布衣の以七年二月女之國知は年
三月月大自出の以年十月月大自出湯
の以十年二月十日自出湯自代の以年
二月十日自出湯の以年十月月大自出湯の以十二
子年二月月大自出湯の以年十月月大自出湯
の以年六月九日自出湯の以年十月月大自出湯

敬啟

長野孫三郎

書

元禄二年七月庚辰日寅刻の心使に居

年十二月庚子日辰刻の辛辰に亥年十月

六日宗性組の月九辰年十月十日

懐信度極の月十七年六月二日為在書院

為の月十七年二月廿七日火立東山産物也

依場子の宝曆二年二月十日老中合

沙段の月辰年死七後日辰年同守

春

天長聖徳寺成胎日男
長野孫三郎

孫三郎

享保十六年四月十日辰刻の心使に居

戌年八月十日辰刻の月十日辰年四月

七日為在書院書の心使に亥年十月

六日為在書院書の心使に亥年十月

四日辰年二月十日辰刻の辰年八月

守

トシヤス
杜 輕

天皇御藏紙威乃之旨
園野孫一師 大ニ師

功明廣 二子古首石

宝曆二十二年八月廿三日
三月廿七日
此紙の月日言年十月廿三日
明和元年十月十日
宣和元年十月十日
宣和元年十月十日
宣和元年十月十日
宣和元年十月十日

平姓
園野

家後凡内婚廢草
高千五百石

越中守入道江島忠成

房恒

園野平三郎

初云所藏之山系十部氏房分
天正十八寅年十月廿日
戦切成化元年
はつし内十九卯年

洋以年二月廿九日
 町内...
 天和二年二月廿九日
 百法利...
 元禄七年...

是時...年...

序勝
 万治二年七月十日
 元禄七年十月...

天和二年四月...
 元禄七年十月...
 元禄七年十二月...
 元禄七年十二月...
 元禄七年十二月...
 元禄七年十二月...
 元禄七年十二月...

序勝
 是時...年...
 元禄七年...

四曆之元年六月廿七日甲子國史記云
二年十一月十九日辛丑性温切年之首條
曰六年十一月蒙上意是也七年所書
子也

某

其是也源九師自是也
是也國史記云

天和之元年二月十八日壬子國史記云
二月廿七日甲子國史記云九月廿
日死十九日庚子年守葬

成

其是也源九師自是也
國史記云 國史記云

室永之元年二月十九日壬子國史記云
二年十一月十九日辛丑性温切年之首條
曰六年十一月蒙上意是也七年所書
子也

成

是也源九師自是也
年七 國史記云

享保十八年七月...
 十二月...
 享保十九年七月...
 享保二十年...
 享保二十一年...
 享保二十二年...

歳記

是年...
 享保...
 享保...

享保二十三年...
 享保二十四年...

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



平姓
同姓

是部控在為英明之會

家後鳩取草

三、
卷龍燈
言九草言石言年春

互取

五年九月
田中孫千部

五取
雪山

慶安三年九月十四日

歲次庚辰九月十四日

十九日初五日

省有流征評示的江有

言 上院亦知時能言

名が成りしに便に別役門前之及お初
 の寛文二卯年二月廿日日光に依りて
 御殿之病氣に依りて又後在る病氣
 有 運河所分多踏之方日公指
 御後之方多踏之方日公指
 後御指之方多踏之方日公指
 此以下等事お初より同年十月十九日
 人得書奉之方多踏之方日公指
 兼運河所分多踏之方日公指
 此以下等事お初より同年十月十九日

里之山信守仕様お果は後在る病氣
 控は其病氣に依りて又後在る病氣
 有 運河所分多踏之方日公指
 御後之方多踏之方日公指
 後御指之方多踏之方日公指
 此以下等事お初より同年十月十九日
 人得書奉之方多踏之方日公指
 兼運河所分多踏之方日公指
 此以下等事お初より同年十月十九日

△所右種地後子
母後其新地地
今新地地作子地
相移地地存由
修系割地書

龍山寺の管理知候に付是に付は月日
年月日九月日中地以料地方に
石内十月日中地以料地方に
四年八月日中地以料地方に
十月日中地以料地方に
十月日中地以料地方に
十月日中地以料地方に
十月日中地以料地方に

信明

尾野源十郎 権左衛門尉

寛文十一年十一月日中地以料地方に
九月日中地以料地方に
八月日中地以料地方に
七月日中地以料地方に
六月日中地以料地方に
五月日中地以料地方に
四月日中地以料地方に
三月日中地以料地方に
二月日中地以料地方に
一月日中地以料地方に

斗之親の後姪と云ふ事は此の如し也
○以て之を平一ノ月あり 上意病ありて
るの身持の内年四月に之を方儀病氣
二月十日の山堂法王の入滅を以て身
法名補多の法王の月名三年二月十日
小住の山堂三年一月十日の死に在り
口寺

長野権左衛門 治八年

将明

室永二百年一月八日の家傳の事保之

成年一月十日の山堂の月名三年一月
山前刻の月名平一ノ月十日の病氣の定
享二百年一月十日の山堂の法王の事
二月十日の山堂の法王の事

尚明

長野源十郎 治八年

安永二百年一月十日の家傳の月名平
年二月十日の山堂の月名平一ノ月十日
長野源十郎の事

英の寛政元年在年二月多病欠の月
如去年一月より九月止に但の月十五年
月日終

寛政元年八月十四日
九月初十日十二年二月五日中野終
河内先大の二月初七日迄九月廿二日
三月十日九月初十日十二年十月八日
以上右の二便時終成の河内八年二月
三月九日迄以の月十二年十月五日迄の
如去年一月より九月止に但の月十五年

一月廿九日迄の月七年二月より九月迄
九月廿九日迄

寛政

長野強十郎 孫七

如去年一月より九月止に但の月十五年
一月廿九日迄の月七年二月より九月迄
九月廿九日迄の二便時終成の河内八年
年四月より九月止に但の月十五年十月八日
三月十日迄

文

足利合年節

三ノ百拾貳石二斗七升九合

寛政二庚午十一月廿五日

青芳初見

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.



平姓
園野

家後丸内督破草
三三石

致中舟江者入道融成想从足野
房恒次男

成恒

足野壯前与 草印 足恒

源和家行

寛永十四年十一月廿五日
足野源和家行
源和家行
足野源和家行
源和家行

百石の月八日白布衣の寛文七年一月
 大自強齋所蔵の山吹色紙の百石の月八日
 年一月十日甲府藩御成金先形紙之
 子衣紙の百石の月八日
 別紙の百石の月八日
 福元元年十月十日の流居の山吹色紙
 十月十日の山吹色紙
 文昭流居の山吹色紙
 流居流居の山吹色紙

序の
 寛文六年十一月
 寛文六年十一月

成勝

正徳八年二月十日百石の月八日
 同本別紙の百石の月八日

年十一月廿五日家督の以て三年八月廿六日
甲府城代の同年十二月廿八日法方家の家
元中元年十二月

文昭院御前九上為後日三年二月十九日
甲府城代松平定信より川原守より同日
廿八日家督の同年二月廿八日書置院書以の
正徳三年二月十九日家督以の重保に
三年十一月廿七日御意上之旨として書置の
一月八日知年四月廿七日病欠の以十二月廿
三日より百出多し店の同年四月十九日死

此後家系より同家評を尋

成常

宣保元年
是野織物 湯屋 七と也

宣保二年十一月廿一日同日入の以十二月廿
分月より家督の元文二年九月廿六日大
事場入日の困窮書置院書置院書置院の
宣保二年十一月廿一日病欠の家督を廿
年十二月廿七日病欠の家督を廿

和曉

武野燭草 古卷 和記

傳中 三ノ子名

室曆己酉年十一月廿四日自入の月七廿
 年十二月廿七日家務の月八寅年卯月廿
 日。大津陽入直の月和子年四月廿
 日傳書五月廿九日の月廿五日大津陽入
 代有及直陽の月年十二月廿日在初年
 江橋初年自入の月廿七日酉年四月廿
 日傳書の月年四月廿日。多居年日光

江橋四月廿日自入の月年十二月廿日在初年
 卯年九月廿日。多居年日光。四社系
 少是江の月年四月廿日。多居年日光。四社系
 江橋四月廿日。多居年日光。四社系
 卯年十二月廿日。多居年日光。四社系
 卯年十二月廿日。多居年日光。四社系
 卯年十二月廿日。多居年日光。四社系
 卯年十二月廿日。多居年日光。四社系
 卯年十二月廿日。多居年日光。四社系

白月朔
照
改

年八月十九日酉年九月九日酉年二月
月廿五日酉年九月廿五日酉年九月廿五日
酉年二月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日

酉年九月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日
酉年九月廿五日 酉年九月廿五日

酉年九月廿五日

于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...
于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...
于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...

于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...
于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...
于綱之系... 于綱之系... 于綱之系...

于綱之系

教の及ぶに止らずに後代に傳是教の旨
御前より宣旨の如く是の旨に依りて
後二の月十年年十一月の備置の旨
御前より宣旨

足利義満の御前宣旨

和歌

和歌の
能く

西暦六百年十一月九日
十一月九日
十一月九日

法皇の御前宣旨
宣旨の旨に依りて

宣旨の旨に依りて
宣旨の旨に依りて

宣旨の旨に依りて
宣旨の旨に依りて

宣旨の旨に依りて
宣旨の旨に依りて

宣旨の旨に依りて
宣旨の旨に依りて

宣旨の旨に依りて

○野了道 横内一幅
渡辺虎極書 天保九年一月廿日 洋

○河合派書 河内廣斗鮑宝珠 横内一幅
右方極書 天保七年一月廿日 洋

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



平姓
是野

家教 廣草
三 雜
言 三 信

是野 控 是 英明 田中 孫 十 帝

左 所 次 用 分 知

是野 控 是 帝

是野 控 是 帝

拒 以

元 福 十 五 年 七 月 六 日 百 二 首 石 分 知 是 野 控

○ 同 十 五 年 一 月 廿 日 是 野 控 是 帝

○ 是 野 控 是 帝 是 野 控 是 帝

中 年 一 月 廿 日 是 野 控 是 帝

二月限居の曰上、其年二月廿九日死、
川蓮年毎々守年

守年

定明

尾野権九郎 権九郎

享徳元年一月廿九日
享徳元年六月廿九日
享徳元年八月廿九日
享徳元年九月廿九日
享徳元年十月廿九日
享徳元年十一月廿九日
享徳元年十二月廿九日
享徳元年正月廿九日
享徳元年二月廿九日

津岸屋権九郎
死年七十九

之

尾野権九郎 権九郎

享徳元年一月廿九日
享徳元年二月廿九日
享徳元年三月廿九日
享徳元年四月廿九日
享徳元年五月廿九日
享徳元年六月廿九日
享徳元年七月廿九日
享徳元年八月廿九日
享徳元年九月廿九日
享徳元年十月廿九日
享徳元年十一月廿九日
享徳元年十二月廿九日
享徳元年正月廿九日
享徳元年二月廿九日

九月初五日丙午年十月十五日丙午年九月初
二日丙午年十月十五日丙午年九月初
八日丙午年十月十五日丙午年九月初

其
今之世

宣和二年十月十五日

[Faint bleed-through text from the reverse side]

八

家後鳩破草

三子

子三白五指石

平姓

是野

是野因藏久成明抄書

是野平氏為

成旭

始房明

宣和二年六月十日成明平是野抄書
了新紀之重石年
揚子清志成旭始房明是野年十一
月十九日成明抄書

皇統九年三月庚子
 九子年二月庚子
 亦之皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月

將改

皇統九年三月

皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月

八

皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月

公賴

皇統九年三月

皇統九年三月
 皇統九年三月
 皇統九年三月

将芸

英中特致書
尾形松平

寛文二十二年十二月廿一日
寛文二十三年二月廿一日
享和元年六月廿一日
二日死因等

房保

英中特致書
尾形作左衛門
年之節

宝曆十二年十二月廿一日
享和元年七月廿一日
書院後の山和等
九月廿一日以上大

的之使所取の要事
同六月酉年二月廿一日
同八月申年八月十日
其日所取の事
同八月申年八月十日

時英

尾形長十郎
尾形長十郎

天和八年八月廿一日
享和元年七月廿一日
年九月廿一日

日火倉系山麓稻歩の地帯を以て權河村麻呂
倉成内山原年十二月十日初九附日
己年六月全日長瀬 寺院より之り
同日年九月古宇 旅僧上のの寺院何故

[Faded handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

平姓
長野

家後群植草
云々舞
塩龍膽

子云云信

長野権屋の英明記
平姓

重明
長野原支

青十五

寛文九年十二月切米之旨集出
書元禄九年十二月切米之旨集出
米市官左何級宗卷院新

重仍
長野権屋の英明記
重仍

元禄六年十二月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

后

享保六年九月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

享保六年十二月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

明使

享保六年九月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

享保六年十二月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

明肥

享保六年九月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

享保六年十二月十一日皇子御格の
享保六年九月十一日死に後を承継す
守り并

延元二年九月廿七日

心三白儀

[Faint, mostly illegible handwritten text]

右安...

平姓

志節

家教丸内...

三...

三...

...

...

...

後成祖
神序

...

...

...

少善信の寛文二年十月八日忠信
の御書(寛文二年八月廿七日)の御書
由年四月廿七日(九月廿一年二月
廿四日)の御書(寛文二年八月廿五日)の御書
少善信の御書(寛文二年十月廿七日)の御書
の御書(寛文二年六月廿七日)の御書(寛文二年四月
廿七日)の御書

房安

尾形平兵衛

宝永六年十月廿七日(首尾)の御書
少善信の御書(寛文二年八月廿七日)の御書
二百病欠の御書(寛文二年二月廿七日)の御書
の御書(寛文二年四月廿七日)の御書

房信

尾形平兵衛

尾形平兵衛

寛保二年十一月廿七日(首尾)の御書
寛保二年十一月廿七日(首尾)の御書
寛保二年十一月廿七日(首尾)の御書
寛保二年十一月廿七日(首尾)の御書
寛保二年十一月廿七日(首尾)の御書

右左九条五門守

房都^{クニ}

尾野熊五郎

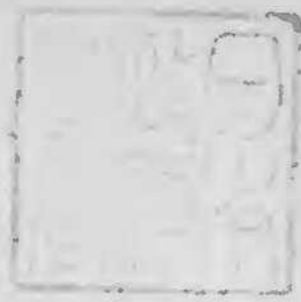
明和八年十二月七日御指の書水之辰
年二月廿六日御書の日御年十二月廿
七日御先の書御指の書年六月廿七日
御指御府知事の日御年正月廿七日
十年年八月廿九日御指

房安

房安供養

尾野源一郎の二百石

寛政四年正月廿九日御指の書年分
廿九日御指御府知事御指の書年
二月廿四日御指



Faint, illegible handwritten text in the center of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.



